



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol. 13
2011.10.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

第6回 新潟口腔ケア研究会に参加して

病棟摂食・口腔ケアサポート委員会 櫻井 賢



今年も新潟口腔ケア研究会が平成23年9月4日(日)に開催され、参加しました。今回で第6回をむかえ、例年通り日本歯科大学新潟生命歯学部講堂にて行われました。9月3日(土)の第2回新潟口腔ケア研究会口腔ケアセミナー「がん患者の口腔ケアと歯科治療」と続いたため新潟県内外の医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士を中心に約200名ともなる参加がありました。研究会では一般演題9題、教育講演および特別講演が各1題と行われ活発な意見交換がなされました。

また会場には口腔ケア関連の企業展示5社が設置され、新商品の試供品配布や現在のトピックスなどが交わされました。

教育講演は昭和大学歯科病院 歯科衛生士長の日山 邦枝先生が「摂食・嚥下機能障害における口腔ケアの実際」のテーマで講演されました。摂食・嚥下機能障害を有する患者さんに対する口腔ケアは、様々な病状および事情が個々にあるため一様に行うことは困難であります。そのような対象者の健康と機能維持のためには多職種間および患者家族の連携、情報共有が重要であると強調されました。

特別講演は同じく昭和大学歯学部教授 歯科病院口腔ケアセンター長の向井 美恵先生に「地域連携歯科医療の実現に向けて一昭和大学口腔ケアセンターの実情―」のテーマで講演して頂きました。昭和大学口腔ケアセンターの役割、①チーム医療の実践:医師、看護師等のスタッフの協力を得て、口腔ケアを通して医療を円滑に行う。②教育への貢献:口腔ケアを学生、臨床研修医等の実習・研修に資する。③地域医療への貢献:退院後に生活する在宅・施設等における地域連携パスに繋ぐ。その内容について詳細に説明して頂きました。

なお第3回新潟口腔研究会口腔ケアセミナー「がん患者の口腔ケアと歯科治療 その2」が平成23年11月5日(土)13時20分より当学部アイヴィホールにて開催予定です。また、次回の第7回新潟口腔ケア研究会は平成24年9月2日(日)に開催予定のため、また多くの参加者が集まり口腔ケアの発展につながることを期待しています。



全身疾患と歯周病

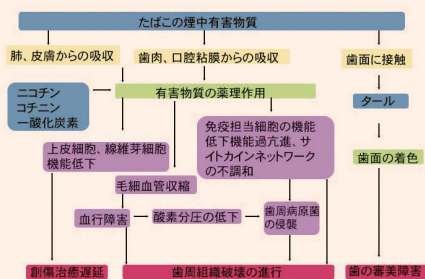
● 特殊歯周病治療外来 医長

阿部 祐三



現在、歯周治療は新たな時代にシフトしている。単なる口腔内の慢性疾患という考え方から変化し、歯周病のみならず、口腔内感染症は、心臓疾患、糖尿病、呼吸器疾患、低体重児出産などの全身疾患や全身状態と関連していることが明らかになっており、Offenbacherによって提唱されたペリオドンタルメディシン(歯周医学)という分野が発展している¹⁾。患者ケアにおける最善の介入をするにあたり、全身疾患との関連性を理解しておくことは、大変重要であるといえる。以下代表的なものを述べることにする。

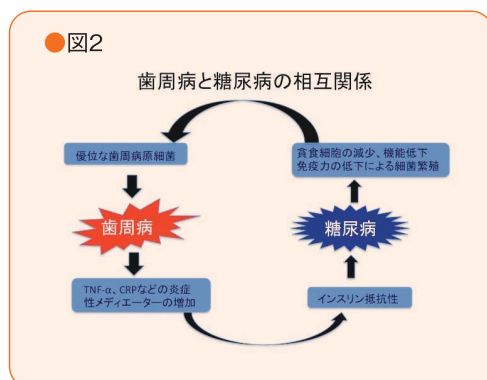
● 図1



◆ 1) 喫煙

喫煙と歯周病との相関関係は多くの疫学的研究がなされてきたが、喫煙の歯周炎に対するオッズ比は1.66であり²⁾、受動喫煙でも歯周炎に影響しオッズ比は1.57であった³⁾。そのメカニズムでは宿主に対して様々な作用を及ぼし、好中球には酸素依存性殺菌能の阻害、マクロファージの活性を減弱させ結果的に免疫応答の低下、創傷治癒遅延を引き起こすとされている。また、臨床的には歯周組織の炎症症状が抑制され、プロービング時の出血が少なく、発赤・腫脹が減弱し、歯肉溝滲出液量も減少する。これによって炎症のマスキングが生じる(図1)。

● 図2



◆ 2) 歯周病と糖尿病

歯周病と糖尿病に有意な相関があることが示されており、糖尿病であると歯周病が悪化する理由には、①口腔が乾燥し唾液の働きが低下し、歯肉に炎症が起こりやすくなること、②血糖値が高いと歯肉溝滲出液中の糖分も高くなり、歯周ポケット内の歯周病原細菌が繁殖しやすくなること、③高血糖によって白血球機能が低下し歯周病原細菌に対する抵抗力が低下すること、④コラーゲン線維や血管基底膜の代謝低下によって歯周組織の修復力が悪化するこ

となどが挙げられる。一方で歯周病に罹患していると糖尿病の血糖コントロールが難しくなることが明らかになっている。逆に2型糖尿病患者では適切な歯周治療によりHbA1cの値が改善する可能性が高いとされている(図2)。

◆3) 歯周病と肥満

肥満から歯周病に与える影響において、動物実験では肥満が免疫機構に影響し、肥満ラットは歯周炎になりやすく⁴⁾、高コレステロールの食事はラット歯周炎を引き起こしたという研究結果がある⁵⁾。ヒトにおける研究では、BMIが40以上の若年肥満者では、歯肉溝滲出液中のTNF- α 量とBMI値に相関がみられた⁶⁾。歯周病から肥満に与える影響では、歯周病における慢性刺激や炎症性サイトカインがインスリン抵抗性を生じさせ、糖尿病や肥満を引き起こしている可能性示されている。歯周病における細菌感染が血中のLPS濃度上昇や炎症性歯周組織で活性化されたマクロファージが体内の脂肪組織集積に関与しているとの報告がある。

●図3

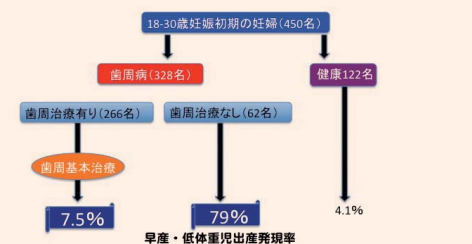


◆4) 歯周病と動脈疾患

歯周病の程度と心冠動脈疾患の発現を追跡調査した報告によると、歯槽骨の吸収度が20%以下のグループに比較して、20%を越えるグループの心臓発作を起こすリスクが2.8倍といわれている⁷⁾。さらに動脈疾患部位から主要な歯周病原細菌が検出されたと報告されている(図3)。

●図4

歯周治療が早産・低体重児出産に与える効果



◆5) 歯周病と早産・低体重児出産

歯周病は、慢性炎症性疾患であり、歯周病局所ではIL-1、TNF- α 、PGE2等の炎症性物質の上昇が認められる。これらは分娩に関わる物質と共通のものが多い。そのため、歯周病の妊婦は分娩の後期に至る前に、これらの物質が早期に上昇し、その影響で分娩時期の前に子宮収縮が引き起こされ、その結果、早産になるのではないかと考えられている。また適切な歯周治療により、その確立が低下した報告がみられる(図4)。

●参考文献

- 1) Offenbacher S : Periodontal disease; pathogenesis. Ann Periodontol, 1 : 821-878,1996.
- 2) Tomar SL, Asma S : Smoking-attributable periodontitis in the United States; findings from NHANES III. J Periodontol, 71 : 743-751,2000.
- 3) Arbes Jr SJ, Agustsdottir H, Slades GD : Environmental tobacco smoke and periodontal disease in the United States. Am J Public Health, 91 : 253-257, 2001.
- 4) Perlstein MI, Bissada NF : Influence of obesity and hypertension on the severity of periodontitis in rats. Oral Surg Oral Med Oral Pathol, 43(5) : 707-719,1977.
- 5) Tomofuji T, Kusano H, Azuma T, Ekuni D, Yamamoto T, Watanabe T : Effects of a high-cholesterol diet on cell behavior in rat periodontitis. J Dent Res, 84(8) : 752-756,2005.
- 6) Lundin M, Yuca-Lindberg T, Dahlöf G, Marcus C, Modéer T : Correlation between TNF α in gingival crevicular fluid and body mass index in obese subjects. Acta Odontol Scand, 62(5) : 273-177, 2004.
- 7) Beck J, Garcia R, Heiss G, Vokonas PS, Offenbacher S : Periodontal disease and cardiovascular disease. J Periodontol, 67 : 1123-1137, 1996.



世界の高齢者と歯科事情

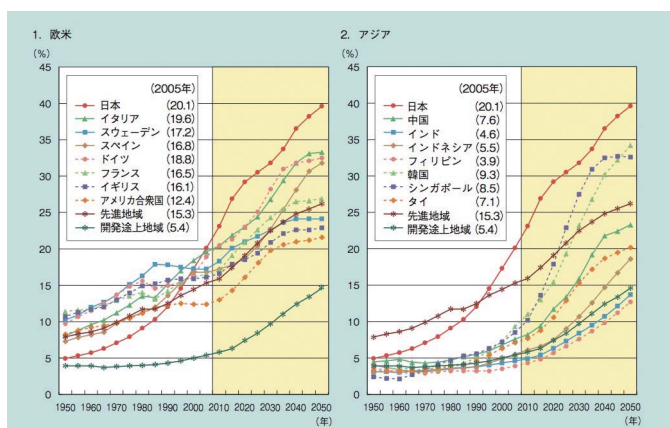
●在宅歯科往診ケアチーム
副チーム長
廣澤 利明



平成23年6月18日、本学の姉妹校である台湾 台中の中山醫學大学において「2011 Symposium of Home Dental Care」が開催されました。新潟病院からは在宅歯科往診ケアチームの黒川と私が招待され、シンポジストとして参加しました。シンポジウムでは、歯科訪問診療について予想以上に熱い質疑応答が繰り広げられ、両校にとって非常に有益なものとなりました。

世界の高齢者事情、台湾の歯科訪問診療そして本学の取り組みについてご報告いたします。

◆世界中が少子高齢化



日本の少子高齢化がどのような位置づけかご存知でしょうか？世界保健機構 (WHO) が発表した「World Health Statistics 2011 (世界保健統計2011)」によると、日本の15歳以下の人口の割合は13%であり、世界で最も低くなっています (世界平均27%)。さらに、60歳以上の人口の割合は30%であり、これは世界で最も高くなっています (世界平均11%)。つまり日本は「少子化」も「高齢化」もトップランナーといえます。しかし、少子高齢化は日本だけではなく、地球規模で進行しています。世界の60歳以上の人口は1950年から

2009年の間に2億500万人から7億3,700万人と3.5倍になりました。その後も年間1.2%の割合で増加し続け、2050年には約3倍の20億人になると予測されています。同時に高齢化の速度も問題になっています。台湾も例外ではなく、我々を含むアジア地域は、欧米に比べ急速な高齢化が進んでいます。特に韓国においては、日本を上回る速度で高齢化が進んでいます。

このような数字を目の当たりにすると、高齢者への歯科医療の必要性を再認識していただきたいと思います。

◆台湾の歯科事情

日本と比較すると、台湾の歯科医療はとても活気がありました。台湾の歯科の需要は非常に高く、インプラントなどの高度医療を希望される患者様も多いようです。中山醫學大学の先生によれば、10年前までは歯学部へ進学するよりも医学部への進学が難しかったようですが、現在は逆転し、歯学部への入学が難しくなっているそうです。

では、台湾の歯科訪問診療はどうなっているのでしょうか。台湾では歯科訪問診療を健康保険で行うことができないため、今までは、ごく一部の富裕層のみが自由診療で歯科訪問診療を受けていました。しかし、台湾でも将来急速に少子高齢化が進行することが予測されているため、制度を変える必要性がありました。そこで、台湾の歯科大学や歯科医師会が行政や国に働きかけ、今年度より健康保険のもとで歯科訪問診療が受けられるようになりました。そのような背景もあり、今回のシンポジウムではかなり具体的なことについての質問が多く挙げられました。



◆リスクを軽減する



台湾のシンポジウムで印象的な質問がありました。それは「歯科往診でハイリスク患者様を診る際、新潟病院の歯科医師は特別な対応をしているのですか?」というものでした。私達が毎日診察している患者様のなかには、非常に全身的なリスクが高い方もおられます。そのため、私達は初診時に十分なお時間をいただき、患者様の状態をできるだけ詳しく把握することに努めています。既往歴、内服薬、かかりつけの病院、自立度そして

家族の希望など、多くの情報を勘案した上で、治療方針を決定します。私たちは患者様の安心・安全を向上することが、リスクの軽減につながると考えています。

◆新潟病院の在宅歯科診療

新潟病院には、歯科訪問診療を専門に行う「在宅歯科往診ケアチーム」があります。本チームは、1987年全国に先駆けて、歯科訪問診療を開始するため院内各科、歯科衛生士、病院事務の協力により活動を開始しました。活動開始から24年経過した現在、本チームの活動内容は地域の高齢者歯科医療、障害者福祉施設の無料歯科検診ならびに災害歯科医療まで広がっています。

先日、在宅歯科往診ケアチームは、「第63回 保健文化賞」を頂きました。今後も地域歯科医療に貢献していきたいと思います。

◆これからの歯科訪問診療

本学では、以前より歯科訪問診療をふくめた高齢者、障害者および有病者歯科医療教育に重点を置いており、口腔機能の改善、維持を念頭に置いた全身状態を把握できる歯科医師の育成を目指しています。また、近年では様々な分野で在宅歯科医療学の包括的な教育を推進する動きがあります。世界一の少子高齢化が急速に進んでいる日本では、歯科訪問診療はもう特別な分野ではありません。このような背景を踏まえ、在宅歯科往診ケアチームは、更なる歯科訪問診療教育の充実を目的に平成22年度から臨床研修歯科医と第5学年病院実習生に在宅歯科医療教育を必修化しています。これは日本で初めての取り組みです。今後は学内だけでなく、全国からの訪問歯科研修希望者を募り、地域に貢献出来る歯科医師の育成に尽力していきたいと考えています。



【地域歯科医療支援室から】

■ FAXによる事前予約のお願い

日頃から当院の地域歯科医療連携につきましてご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ご紹介頂く医療機関様におかれましてはお手数をおかけしますが、患者様の待ち時間短縮のため、是非FAXによる事前予約をご利用くださいますようお願いいたします。従来どおり各診療科に直接患者様をご紹介いただくことも可能です。

なお、特殊外来につきましては、なるべく事前予約をお願いいたします。

ご不明な点は地域歯科医療支援室までお寄せ下さい。

TEL : 025-267-1500(内線203) FAX : 025-267-1546

日本歯科大学新潟病院地域歯科医療支援室

メールマガジン登録の御案内

■近年、歯科界を取り巻く情勢は厳しく、医療法改正や診療報酬改正においても、医療安全、院内感染対策をはじめとする研修の義務化や、医科歯科連携を含む他業種との連携強化などが要件として盛り込まれるなど、各種医療情報の早期収集や病診連携が重要になっております。このような現状をふまえ、新潟病院地域歯科医療支援室では、地域の歯科医師を対象に、メールマガジンを開設いたしました。

■本事業にご登録いただくことにより、新潟病院関係各科からの医療情報や医療安全情報、研修会、講習会、学会情報などの御案内を優先的にさせていただくシステムです。

■登録ご希望の先生は、申込書を支援室直通FAX(025-267-1546)していただきたく存じます。申込書は、新潟病院ホームページ地域歯科医療支援室(<http://www.ngt.ndu.ac.jp/hospital/index.html>)からダウンロードできます。

■なお本システムのサーバ管理は、新潟病院生命歯学部ITセンターにて行います。また地域歯科医療支援室は、本事業における収集した個人情報の漏洩、滅失又は棄損の防止、その他収集した情報の適切な管理のために必要な措置を講じます。

【注意事項】

受信される先生のメール環境によっては、マガジンのメール容量が重いため配信できない方がおられます。添付ファイルの軽量化を図るなど、改善策を講じておりますので、しばらくお待ちください。

【免責事項】

メールの配信については、回線上的問題(メールの遅延、消失)等により届かなかった場合の再送は行いません。本事業は、新潟病院の都合により、「新潟病院ホームページ」において予告した後に中止又は廃止されることがあります。新潟病院は、本事業の利用、運用の中止、延期、終了等により発生する一切の責任を負いません。



●本メールマガジンへのお問い合わせ、ご意見、ご希望ありましたら、shien@ngt.ndu.ac.jpまでお寄せください。

編集後記

■初めての編集委員担当です。普段接することのない部署の先生方との初めてのやり取りに緊張することもありますが、早く原稿執筆を戴き、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、病院の建物を覆う蔦(アイヴィ)が紅葉する季節を迎えました。日ごとに色づく姿を毎朝見るのが毎年の楽しみです。特に晴れた日はコントラストがくっきりして、清々しい気分になさしてくれます。皆さんも病院にいらした際にご覧になってみて下さい。(yama)